

市民フロンティア



URL <http://www.cskobe.com/>

E-MAIL info@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：梅木利恵

【CS神戸最前線】

「地域にやさしいCS神戸」

～ 今年で15年目 過去への感謝、未来への挑戦、第二創生期がスタート ～



中村 順子 （CS神戸 理事長）

2009年度のミッション目標は、「新しい公への意識改革」と「社会貢献の可視化」でした。

NPOの民間中間支援組織として果たす役割を、まずはスタッフ個人の意識から内発すべきものと規定し取り組んできました。さらに組織としてできること、そして地域に還元し、社会貢献すべきことをこの間、計画し着手してきました。「新しい公への意識改革」においては、スタッフ個人の実務と管理の力量が向上し、組織としては新休暇制度や待遇改善にも取り組み、新しい挑戦に向かう年度となりました。

総括すると、2009年度は、CS神戸が過去の15年の実績を地域や社会に思い切った還元をする第2創生期へ、新たな展望を拓くべく着実な道筋をつけた年度であったと言えます。

2010年10月にCS神戸は創設15年目を迎えます。法人設立としては11年ですが、この間、民設民営の地域密着型中間支援組織として、震災復興支援から地域課題に対応する市民活動を様々な側面から支援してきました。同時に単体のNPOとして挑戦を続けてきた実績には、新しい公への挑戦者としての自負もありますが、このあたりでこれまでを集大成し、次の段階へ構築をする時期ではないかと考えます。

今年度の重要方針は、2009年度に掲げた「新しい公への意識改革」と「社会貢献の可視化」の、とりわけ「社会貢献の可視化」の具体化です。

外部環境を見渡せば、1つには、社会の枠組みや価値観が急速に転換し、従来の行政・企業の主導だけでは社会が支えられない現実が到来し、そこにNPOの登場が期待され（NPOへの期待）、2つには、NPO

の担い手となる団塊世代層がいよいよ地域デビューの時期を迎えていること（担い手の増加）。3つには、政権が交代し「新しい公共」のもとNPO税制改革が行われようとし、参議院選の公約においてもほぼ全党が何らかの形で、NPO・NGO支援を公約や政策集に盛り込んできている事実（時代のチャンス）があります。

時に、「NPO再構築への道～パートナーシップを支える仕組み～」(藤井敦史氏他著、2010/4 勁草書房より上梓)においてCS神戸の事業の姿勢やネットワーク型事業の展開などが評価され、意を強くしています。

一方、地元環境に転じると、CS神戸が市民から見てNPOの中核機関であるかといえ、その認知はまだまだ努力を要します（神戸市民の認知を得ていない）。身近な市民にNPOのことならCS神戸と認められてはいない現状（東灘地元への貢献が見えない）、もっと沢山の人々と語り合い参加の機会をつくり出すことが求められています。次世代（CS神戸のリーダー層）を養成することも重要な時期となってきました。

以上のような状況において、2010年度以降をCS神戸の第2創生期と位置づけ、過去への感謝、未来への挑戦の節目とし、これまでの130に上る事業、300に余る団体支援の蓄積を適切に社会還元するタイミングとします。また本事業はCS神戸の次世代リーダー養成事業としても位置づけます。

事業・組織運営については当然のことながら従来方針の延長にあり継承発展させながら、地元の根っこの部分を大切にする、「地域にやさしいCS神戸」を基本コンセプトに、15周年記念・地域貢献事業（企画立案中）そのものを中核事業に据え取組んでまいります。

2010年度 第1回理事会を開催

通常総会を控え、役員で事前審議



CS神戸事務所内での総会風景

5月30日(日) 午前10時半～12時、CS神戸の事務所にて、今年度の初回理事会が開催されました。同会は足立勝、石川剛一、金芳外城雄、坂本 登、中村順子の各理事と、委任状による末村祐子、中村厚子両理事の出席を得て、計7名全員出席にて成立し、以下の議案が審議されました。また、今回は當間克雄、松下忠義両監事、星野裕志トータルアドバイザーにも陪席をいただきました。

【決議事項】

1. 任期満了に伴う役員選定の件

2010年度が役員の2年任期の満期であるが、15周年記念事業もあり、引き続き役員を継続する。

2. 2009年度活動報告および収支決算報告・監査報告の件

新規事業を既存のスタッフで実施したこと等により、730万円プラスの収支差額となった。監事より、5月26日に監査を行った結果、適切に処理されていることを確認した旨のご報告あり。

3. 2010年度活動方針および収支予算の件

15周年を迎える節目の年度となり、従来事業に加え、CS神戸の第二創生事業として位置づけた15周年記念事業を実施。2010年度事業の総予算は9,000万円程度。

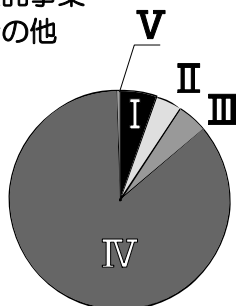
以上の3つの議案について総会に諮るべく、理事長より趣旨提案がありました。審議の結果、議案の通り総会にて起案することが承認されました。

第11期収支決算報告 (2009/4/1～2010/3/31)

2009年度決算収支構成

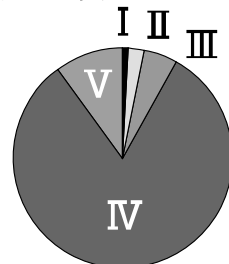
<収入の部 100,685 千円>

- I 会費・寄付金
- II 助成金・補助金
- III 自主事業
- IV 受託事業
- V その他

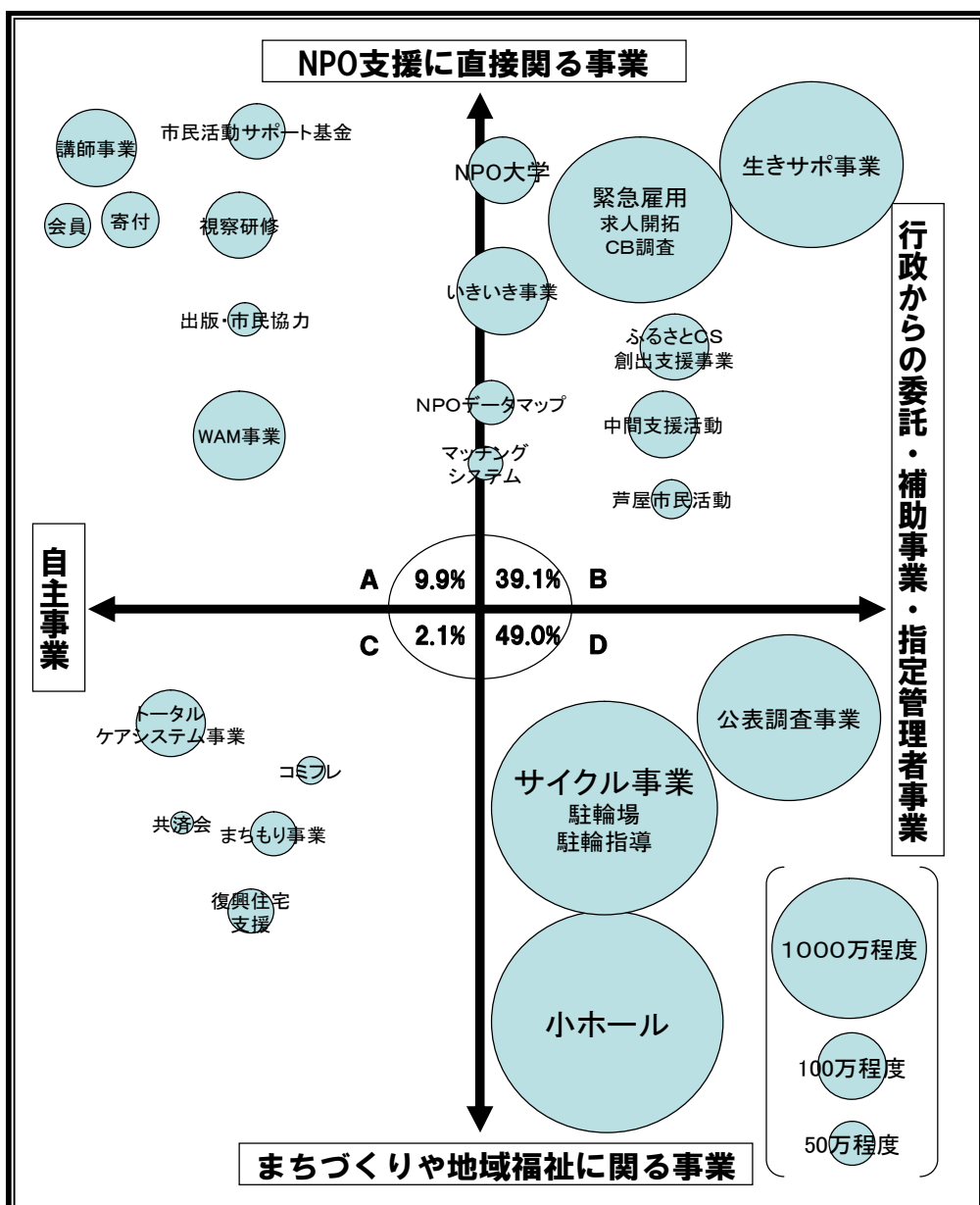


<支出の部 93,330 千円>

- I 支援事業
- II 直轄事業
- III 自主事業
- IV 受託事業
- V 一般管理費



CS神戸における事業構成 2009年度決算実績



2010 年度 第 12 期（第 21 回）

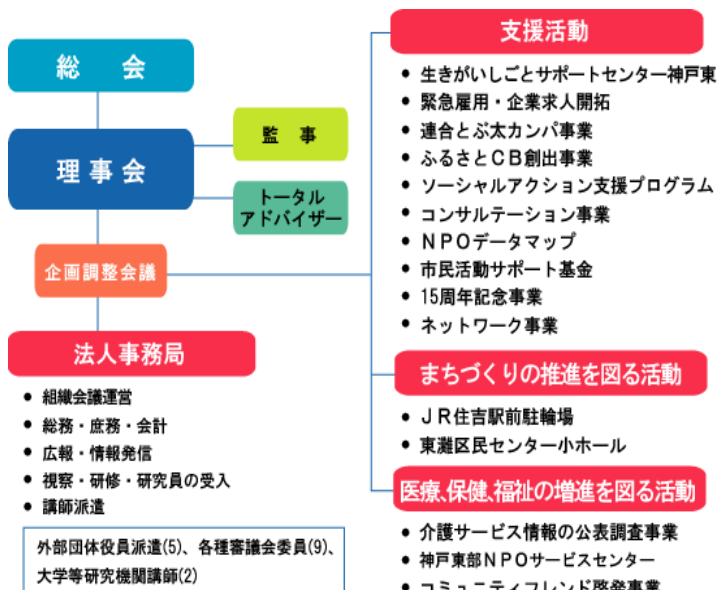
通常総会を開催

5 月 30 日(日)の午後 1 時より、3 時半まで、2010 年度（第 21 回）の通常総会が、CS 神戸の事務所に開催されました。出席者は、足立 勝、石川剛一、今田 忠、岡本仁宏、金芳外城雄、国枝哲男、小室邦夫、坂本 登、佐野末夫、立田英雄、當間克男、中村順子、星野裕志、松下忠義、安元邦夫の各正会員でした。（書面による出席は、荒巻順一、末村祐子、長谷川京子、中村厚子の各正会員。）

審議の結果、以下の全ての議案が可決・承認されました。

【決議事項】

1. 任期满了に伴う役員選定の件
2. 2009 年度活動報告および収支決算報告・監査報告の件
3. 2010 年度活動方針および収支予算の件



(1) 2010 年度活動方針について

●法人事務局

- ・ 視察研修事業については、新たなパッケージを検討し、集客をめざします。

●支援活動

- ・ ワラビー事業は従来どおり就業・起業支援を軸に、生きサポ 10 周年記念事業として合同フォーラムを実施します。
- ・ ソーシャルアクション支援プログラムは昨年度の枠組みを踏襲しつつ、修了生のネットワークを効果的に活用します。

- ・ ふるさとCB創出支援事業はインターン生の起業が最優先課題。ネットワークを活かしてサポートします。
- ・ コンサルテーション事業については、助成金事業や自主事業にかかわらず、CS 神戸経験を生かせる事業として枠組みを検討していきます。

●まちづくりの推進を図る活動

- ・ サイクルでは新機軸として、地元商店街との連携やスタッフの接客サービス向上を目的としたマナー研修の実施を予定しています。
- ・ サイクルと小ホール合同で指定管理者制度のあり方研究会を実施し、情報収集をすると共に現場からの提言できるよう知識を深めていきます。

●保健・医療・福祉活動

- ・ 今年度は介護サービス情報の公表調査事業費が 20%減額となり、収支差額ゼロの予定です。
- ・ 全国老人給食研究会からの打診で、高齢者の栄養に関するフォーラムを 12 月に実施します。

(2) 2010 年度収支予算について（P.2 に記載）

(3) 15 周年記念事業構想について

- ・ 「地域にやさしいCS 神戸」を基本コンセプトに「過去への感謝、未来への挑戦」の節目として、CS 神戸の第二創生の位置づけとして実施します。
- ・ 内容は、①NPOプラットフォーム（ワラビーやNPOサービスセンターの相談業務をメインとし、市民同士がくつろぎ、情報を得ることができる場所）、②NPOコミュニティファンド（市民活動サポート基金の転用と増資を予定し、CS 神戸単独での設置を検討）の 2 事業の創設とすることを検討します。
- ・ 事業費については、15 年間の繰越剰余金を活用し、案件によって補填的に助成金の活用も検討します。
- ・ 役員、スタッフ、会員など関係者で意見交換を繰り返し、納得のいく地域貢献事業ができるよう、1 年程度の時間をかけながらじっくりと実行していきます。



正会員 15 名、スタッフ 11 名、外部スタッフ 1 名が出席

中学生のキラキラ輝く未来にエールを！

去る5月31日～6月4日、本庄中学校2年男子生徒4名のトライやるウィーク（就業体験）の受け入れを行いました。



真剣な生徒達に、真面目に回答中…

初日は本部事務所にて、CS神戸の活動概要を聞いてもらった後、駐輪場で使用する注意札を作る班と中学生自身が考えた質問をCS神戸のスタッフ

に対して個別にヒアリングする班の2班に分かれてもらいました。注意札を作る班は、授業で行なう工作ではなく、実地の仕事に使われるものを触っているということで、緊張した面持ちで鋏を使い作業していました。ヒアリング班は、「NPOを就職先にした動機は？」「仕事をする中でどんな時に喜びを感じるか？」など漠然としながらも自分達の将来の仕事像を描きつつ、真剣に質問をしている様子でした。一方、昼食用にみんなでいただく味噌汁を作ってもらった時は、「まさか、ここに来て味噌汁を作ると思わなかった～」と無邪気に驚きの声を上げていました。



—— トライやるウィークの受け入れ報告 ——

駐輪場では3日間、駐輪場内の車両整理や違反駐車車両への注意札の貼付け、事務所や駐輪場周辺地域の清掃などを行ってもらいました。清掃中、通行人の方やお店の方達から、「ありがとう」と声をかけていただき、生徒さんは照れながらも満足気な表情をしていました。そして、注意札の貼付けの時、指導にあたっていた現場スタッフよりも素早く生徒さんが該当車両を見つけ、スタッフが「やっぱり若くて目がエエから違反車をすぐ見つけられるなあ」と感心する場面もありました。



「ほらね。整理したら、もう1台…」

現場スタッフは、「生徒の皆さんのおかげで仕事が大変はかどり、ありがたかった。」と喜んでいました。

生徒の皆さんも自ら率先して動き、仕事の最初と最後にいつも元気で礼儀正しい挨拶をし、スタッフと良い環境を作り出していました。

皆さんのこれからの健やかな成長と、本当に自分のしたい仕事をして、幸せな人生を送られることを願っています。（担当：朴 京守）

第2期、順調にスタート！！

—— ソーシャルアクション支援プログラム ——



去る6月23日、第2期ソーシャルアクション支援プログラムが始まりました。座学、体験、実務の各コースを通じて、地域のしごとや地域活動を総合的に学ぶ長期研修プログラムで、参加者はシニア層を中心に35名。昨年度同様、(財)神戸いきいき勤労財団とCS神戸が協働で取り組んでいます。



大島さんご講話「地域活動のススメ」

1学期の初日は、公益財団法人さわやか福祉財団の大島政義さんによる「地域活動のススメ」からスタート。退職後の10万時間の使い方や、自分にあった地域活動の見

つけ方など、社会の役にも立って、楽しく暮らせるポイントをわかりやすくお話いただきました。後半は小グループに分かれての『助け・助けられゲーム』。「ペットの散歩」、「庭木の剪定」、「車での送迎」など、ちょっとした日常の困りごとが書かれたカードを使いながら、「誰か助けてくれへん？」、「運転やったら僕がやってあげるわ」など、ワイワイと盛り上がりしました。



「助け・助けられゲーム」でワイワイ

そして、今年度の新たな取り組みとして、昨年度修了された1期生にもプログラムの運営に参画いただいています。講座の受付、グループワークのファシリテーター

の他、今後は講座の講師としてもご登壇いただく予定です。また「ソーシャルアクション支援プログラム応援団」として修了生5名が発行した「いきいき便り」には、1期生のその後の活動や、2期生へのメッセージが掲載されており、年度を越えた仲間の輪も広がっています。

参加者アンケートでは「学生時代に戻ったようで楽しい」、「講座のある水曜日が待ち遠しい」、「自分ができることをしっかりと見つけたい」といった感想が多く寄せられ、関心の高さがうかがえます。まだ始まったばかりですが、2学期の体験コース、3学期の実務コースを通じて、「生きがいを感じながら、社会の役にも立ちたい」という声の、ひとつの答えになるようなプログラムにしていきたいと思います。（担当：飛田敦子）

調査員と手掛けた第1期570件、無事調査終了

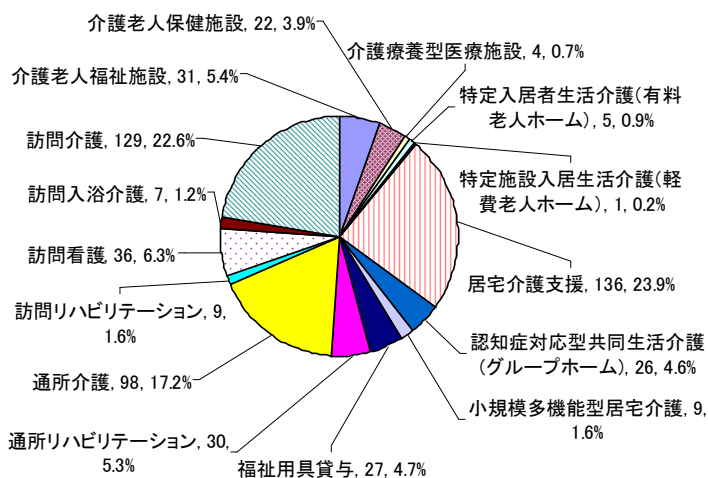
昨年4月に兵庫県から事業受託した後、訪問調査が実際に始まったのは10月末、本年6月18日に今期最終の調査員研修会を開催し、7月に完了しました。

●訪問総件数は570件で、施設系63件、在宅系が507件です。施設系の介護老人福祉施設と介護老人保健施設が31件と22件、行政の施策を反映し介護療養型医療施設はわずか4件であり、有料老人ホームの6件はこれから増加してくると予想しています。

在宅系は、居宅、訪介、通所介護が多く、三桁の件数になりますが、訪看、通所リハ、福祉用具、グループホームは30件前後、用具の事業所が想像以上に少なかったのは意外でした。訪問入浴、小規模多機能、訪問リハビリが10件前後、地域密着型小規模施設や在宅での訪問リハ等が多く望まれているのが現実であるにも関わらず、経営的に得策ではないことで少ない数となっています。

介護サービス情報の公表調査実施先一覧

	実数	構成比
訪問総件数	570	100%
施設系	63	11.1%
介護老人福祉施設	31	5.4%
介護老人保健施設	22	3.9%
介護療養型医療施設	4	0.7%
特定入居者生活介護(有料老人ホーム)	5	0.9%
特定施設入居生活介護(軽費老人ホーム)	1	0.2%
在宅系	507	88.9%
居宅介護支援	136	23.9%
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	26	4.6%
小規模多機能型居宅介護	9	1.6%
福祉用具貸与	27	4.7%
通所リハビリテーション	30	5.3%
通所介護	98	17.2%
訪問リハビリテーション	9	1.6%
訪問看護	36	6.3%
訪問入浴介護	7	1.2%
訪問介護	129	22.6%



●訪問地域については、兵庫県全域に亘りますが、多い順では、神戸市、尼崎市、西宮市と続き、兵庫県北部の豊岡市、多可町などは10件前後でしたが、交通の便を考慮して訪問を計画することの難しさを改めて感じました。

— 介護保険サービスの情報公表調査事業 —

【地域別訪問件数】神戸市(178)、姫路市(62)、尼崎市(39)、西宮市(34)、明石市および加古川市(25)、宝塚市(22)、豊岡市(13)、三木市(11)、芦屋市(11)、多可町(10)、伊丹市(9)、宍粟市(9)、淡路市・加東市・三田市・猪名川町(いずれも8)、他市(27)。

これだけ多くの介護保険サービス事業所が日本国中どこにでも在り、サービスを受けられるシステムが出来たことは素晴らしいことと思います。また、情報公表制度の確認作業をもとに事業所側のレベルを知り、標準化に寄与できることを考えています。この情報の公表システムが利用者側にどの程度利用されているのかは大いに疑問があり、今後の改善に国を挙げて取り組むことになっているようです。

また、調査員がさらに向上することによって事業所側に質の評価を加えていくことや、調査結果に提言をさせていただくことができるようになれば、当該制度のさらなる発展に結びつくことと確信しています。そのためにも、調査機関側の調査に関する標準化とたゆまぬ切磋琢磨が必要であると考えます。

訪問調査において幸い、事業所からこれといったクレームが無かったことを喜び調査員の皆様方に深謝する次第です。

(担当：小林清隆)

コミュニティフレンド&アイフレンドの交流深まる

— コミュニティフレンド啓発事業 —

『コミュニティフレンド』とは、友だちがほしいと思っている障がいのある人と《まちの中のともだち》として関わってくれる人のことです。学生、主婦、会社員、福祉の支援者など、いろんな人がなれます。

『アイフレンド』とは、自分のことをわかってくれる友だちがほしいと思っている障がいのあるご本人のことです。“まずはみんなでいっしょに、楽しい時間をすごしてみませんか？”の呼び掛けに20名が集まりました。



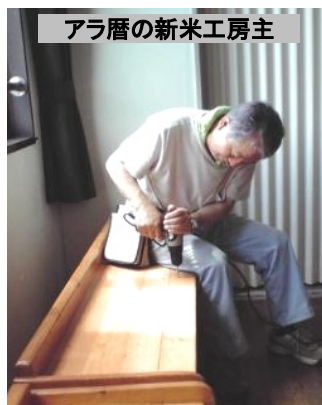
コミフレ活動実践者からのお話も…

共通する好きな話題について話したり、大きな声で歌を歌ったりして楽しみ、ほとんど全員が今後も活動に参加を希望する意思カードを提出して帰られました。

引き続き、8月3日(火)にコーディネーター養成講座、8月8日(日)にコミュニティフレンド講座、9月に交流マッチング会の開催を予定しています。参加ご希望の方は、お気軽に担当までお問合せ下さい。電話 078-841-0310 (担当：梅木利恵)

起業続々、インターン生の羽ばたき

— ふるさとCB創出支援事業 —



アラ厩の新米工房主

コミュニティ・サポートセンター神戸で、ふるさとCB創出支援事業のインターン生としてお世話になり、7ヶ月が経過しました。お蔭様で、最終目的である「自営」について、少しずつですが自信が持てるようになりました。また、ワラビーの方やふるさとCBのインストラクターの方達には、「自営」に欠かせない幅広いネットワークを作る機会を、多く与えていただき、皆様方にとっても感謝しております。ありがとうございます。

「自営」の内容は、身の回りにある「当たり前」の不便を「すみよい」暮らしに提案・改善するお手伝いができたらと考え、名称は「便利工房ーK」と名付けました。住宅設備機器メーカーでの企画・開発業務の経験やポリテクセンター兵庫で学んだ「住宅リフォーム」の基本を思い出し、どんなご要望にも対応できる「便利屋」をめざしています。

そのために、まず自宅のキッチン周りの器具交換、トイレ・洗面所・リビングの内装リフォーム、網戸の張替などをやりましたが、未だに「すみよい」暮らしの追求を続けています。



Before

After

また、CS神戸から先に自立された“なごみ工房”の藤原さんと共同で、東灘区民センター小ホール様のご依頼でベンチ造作及び取付工事をさせてい

ただきました。ホール内に置かれた空調用室内機をベンチとして利用する事が前提で、ベンチの要求仕様とは何かを念頭に設計・組立・設置をしました。自分としては、会場の雰囲気になさわしく、座り心地もよく、自己満足しています。機会がありましたら是非座ってみてください。

もう一つの課題としては、丹波・篠山地域の間伐材を有効利用する取組みをさせていただいています。間伐材は住宅用木材として利用し難い面がありますが、貴重な資源には変わりありません。里山にある原木を伐採から製材、さらに加工までのルートを短くし、資材として利用しやすい『仕組み』をつくりたいと考えています。ご支援よろしく願いいたします。

(担当：便利工房ーK／木幡幸雄)

市民ギャラリーが誕生しました

— 神戸市立東灘区民センター小ホール(魚崎) —



玄関ホール左



玄関ホール右



憩いコーナー

今年の5月から、小ホール1階の玄関ホールの壁面の一部と憩いコーナーを無料貸しの市民ギャラリーとして開設しました。一年を通じて日頃の文化・芸術活動で創作した絵画・写真・書道・彫刻・工芸などを展示し、文化情報の発信の『場』としています。

ちなみに、この開設のためのピックアップ等設置工事は、左記の便利工房ーK／木幡幸雄さんをお願いしました。木幡さんは、ホールの空調用室内機を再利用したベンチの製作に際して、あらかじめ実物と同じ

材料で見本を作って下さるほどのとても丁寧な仕事ぶりだったので、安心して全ての工事一式をお願いすることができました。どうもお世話になり、ありがとうございました。

市民ギャラリーのご利用にあたって…

- 条 件 : 施設の雰囲気に合う作品ならOKです。
(簡単な審査をさせていただきます。)
- 期 間 : 基本は1週間単位(最長3週間)
- 出展料金 : 無料
- 展示方法 : ピクチャーレールあり。施設を傷つければ、展示の手段は自由。
- 予 約 : ①お名前②ご住所③電話番号④展示物の種類と写真⑤希望展示期間をご提示下さい。
- 免責事項 : 作品等に破損・不具合を生じた場合・何らかの不都合が生じた場合は当方では責任を負いかねます。
- 問合せ : 東灘区民センター小ホール(魚崎)
TEL (078)453-0151
FAX (078)451-5840
E-mail showhall@cskobe.com

(担当：館長・兵頭修也)

予告
8/27

NPO16 団体から 33 名、次回はさらに…

— 東灘NPOフォーラム —



さすが！エネルギーな方揃い

東灘区内は民間の自主的活動は盛んなものの、現状は横のつながりが少なく、今後はまちの情報交換・意見交換をして、行政とも協働しながら まちに

役立つ環境をめざして、区内に所在するNPO法人 66 団体に呼掛けをしたところ、4月24日(土)、16 団体 33 名の方々がお集まり下さいました。

初回ということで、活動の目的や内容・活動頻度や曜日や時間帯・会費徴収・事務局体制・集まりの名称等々をグループディスカッションをしながら決めていきました。

次回は、8月27日(金)、第2回東灘フォーラムと懇談会を開催する予定です。近々、改めて対象の全団体にのご案内いたします。東灘区内NPO法人にご所属の方は、是非ご参加下さいませ。お待ちしております。

(担当：梅木利恵)

あなたにチャンスあり！

丹波篠山と阪神間をつなぐコミュニティビジネス

— ふるさとCB創出支援事業 —

「農と木のある暮らし」・「農的な社会の創造」 地域を活性化するのは今しかない！！

命を育て、つないでいくという大切な産業が今、多くの問題を抱えています。そんな中、神戸や丹波篠山地域で活躍し、持続可能な生き方を選び、各分野で光を照らし続ける諸先輩方の生の声が聴ける貴重なセミナーです。「十人十色の暮らし方」地域と関わりながら、あなたも社会を変えてみませんか？

	日時	講師・テーマ
1	9/23(木・祝) 13:30~16:00	本野 一郎 (NPO法人兵庫県有機農業研究会理事長) 「地域が支える食と農」
2	10/2(土) 13:30~15:00	森岡 武(株 地域計画建築研究所) 「まちづくりの変革点」
3	10/16(土) 13:30~15:00	長田 明彦(自然農従事者) 「あなたもできる自然農」
4	10/30(土) 13:30~15:00	能口 秀一(有)ウッズ代表、木材コーディネーター) 「森林資源の循環」
5	11/13(土) 13:30~15:00	岩元 清志(インターンした新規専業農家) 「インターン移住の新規就農」

※会場は、いずれも神戸市勤労会館(JR三ノ宮)

(担当：土井孝浩)

10 年 7 月、社会人インターン生を迎えました インターン生の修了報告

高瀬 尚香 (たかせ なおか)

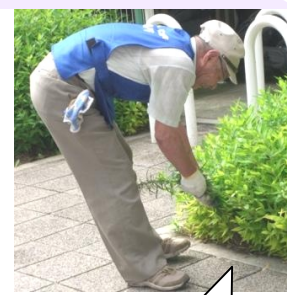


この春に心理学系の大学院を卒業して、“こころの専門家”1年生となりました。私が所属する一般社団法人クルシは、街の絵画教室として、毎日たくさんの方々との絵画活動とおした関わりがあります。生徒さんのなかには、なんらかのハンディ

キャップを持つひとが少なくありません。こうした毎日のなかでは、ついつい物知り顔になってしまう“こころの専門家”1年生です。そんな私に代表理事である赤堀富子さんは、「社会を知り、組織を知ってほしい」という思いを込めて、インターンの機会を与えてくださいました。

インターンでは 6 日間という短い期間でしたが、たくさんの学びがありました。期間中は、主にソーシャルアクション支援プログラムに関わり、その運営だけでなく、参加者としてもお邪魔させていただきました。こうしたなかで、実に多くの方がプロジェクトの企画・運営に携わっていることを知りました。そして、参加者の方々もプロジェクトを運営していく担い手であることに気づかされました。この体験は、“こころの専門家”という名の上にあぐらをかいていた私自身を深く反省させる機会となりました。今回の実習をとおして、「誠実さ」と「謙虚さ」を改めて学ばせていただきました。

フォト ギャラリー



うんとこ
どっこいしょっ！

ボランティアさんも
加わって駐輪場の
一斉清掃

生きがいしごとサポートセンター

10周年記念合同フォーラム

「幸せな働き方を考える」

依然として失業率の高い現状ですが、CS神戸の生きがいしごとサポートセンター神戸東では、こんな時勢でもご本人にとって「生きがい、やりがい」を感じる働き方を探してもらおうと、日々、就業・起業のご支援をさせていただいています。

このたび、「生きがいしごとサポートセンター」創設10周年を記念して、6ヶ所の生きサポが合同でフォーラムを開催します。

◆日時 8月21日(土) 13:30~16:30

◆会場 神戸市勤労会館 大ホール
(JR三ノ宮駅から東へ徒歩5分)

◆参加料 無料(要事前申込み)

第1部 基調講演

「地域も人も幸せになる 働きかた、起業のしかた」

～「日本でいちばん大切にしたい会社」著者からの提言～

講師：坂本光司氏 法政大学大学院教授

第2部 パネルディスカッション

「コミュニティビジネスの 楽しさ・面白さと可能性」

～実践者に聴くボランティアとも営利企業とも違う

コミュニティビジネスの現状～

パネリスト：

- 細谷 崇氏 NPO法人 コミュニティリンク
- 塩山 諒氏 NPO法人 スマイルスタイル
- 赤堀富子氏 一般社団法人 クルレ
- 泉 和男氏 NPO法人 こども発達サポートセンター
- 杉山悦子氏 NPO法人 サポートセンター木立
- 山崎清治氏 NPO法人 生涯学習サポート兵庫

※お申込み・お問合せは、

生きがいしごとサポートセンター神戸東(ワラビー)
神戸市東灘区住吉本町2-13-1 森田ビル3階
TEL 078-841-0387 FAX 078-841-0312
URL <http://www.cs-wallaby.com>
開室…月曜～土曜日(日・祝休み)、9:30～17:30

ワラビーでは 起業相談・就業
相談・求人募集を受付けています！



会費・寄付・寄贈をいただき、 誠にありがとうございました

(期間 10年4/27～10年7/25、いずれも順不同・敬称略)
※トータルケアシステムは別枠で取扱っています。

【会費】

青木昌史、朝山日出夫、足立 勝、尼川洋子、荒巻順一、石川両一、伊谷須美子、市村恵美子、伊藤靖子、稲田薫、井上雅晴、今田 忠、植戸貴子、臼井隆夫、江口敬一、江口 聡、大谷敏行、大日向郁夫、岡田 進、岡田雅幸、岡田 覚、尾山宗久、角田敏子、金芳外城雄、岸 千尋、木幡幸雄、日下恵子、日下哲治、福島若子(洋子)、国枝哲男、桑山信子、河野正和、古結洋子、小林るみ子、小室邦夫、坂本 登、佐藤正義、佐野末夫、塩路晃二郎、四鬼 剛、重政和洋、進藤啓子、末村祐子、直田春夫、高橋 度、滝澤英一・めぐみ、立田英雄、津田久雄、土井孝浩、當間克雄、猶原信男、中島朋子、中村厚子、西 信弥、西山八重子、檜谷 實、平田富士男、藤浦 剛、藤原和男、星野裕志、松岡弘子、松下忠義、松本徳治、圓井匡代、光岡丈一、宮下隆二、務川悦孝、森 功、森田正純、山口一史、弓削 一

(特) 思いやり支援センターくまの、一般社団法人 クルレ、(特) 神戸西助け合いネットワーク、(特) 阪神パソコンネット、ヒューマンスキル研究所、(特) 福祉ネットワーク西須磨だんらん、医療法人明倫会 宮地病院

【寄付・寄贈】

狩野仁未、国枝哲男、菅 祥明、中村順子、飛田敦子、村上義弘、家城裕之

会費未納の皆さまには、別途お便りを入れさせていただきます。ご確認の程よろしく願いいたします。振込用紙をなくされた方は、以下宛にお振込みをお願いいたします。

【振込先】 名義 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸
郵便振替口座 00950-2-144205

編集後記



前号の市民フロンティアをお送りした際に、CS神戸からのお願いとして、会費納入・ペーパーレス化・ご意見に関しての用紙を同封させていただきました。お返事を下さった皆さまにはお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

ちなみにペーパーレス化を希望された方は…6名でした。

ご意見としては、「ペーパーレス化で会員サービスや会員特典が低減するのでは?」「ホームページで、日常的な情報発信をお願いしたい。」という会員サービスに着眼した鞭撻のお言葉がある一方、「震災 15 周年を迎えて、つながろう! そしてもっとつながよう! に共鳴しています。」「がんばって下さい。応援しています。」という激励のメッセージもいただいています。

CS神戸のスタッフ一同、どのお言葉も真摯に受け止め、一丸となって 15 周年記念・地域貢献事業の達成、自主事業・まちづくり領域での事業の拡大化、第 2 創生期における次世代リーダー養成に向けて、適切なスピードでバランスよく邁進・漸進していきたいと思います。 R